

説教余滴 2018年7月8日、アトリビューション

アトリビューション、**attribution**、

帰属、属性、帰因、持ち物、標章。PC時代になり新しい用法が生まれました。

サイバー攻撃をしかけてきた相手を突き止めること。

今でこそ西洋絵画は鑑賞するものですが、もともとは視覚言語でした。現代のように識字率が高くなかった時代、人に何かを伝えようとするのに、絵は非常に便利なものでした。どのような言語を話そうか絵を観ることができれば関係ないからです。絵を見れば、言語とは無関係に、多くのことを伝えることができました。

そんな西洋絵画が飛躍的に発達するきっかけとなったのがキリスト教の普及です。当時は印刷技術もないためキリストの教えを普及するには言葉で伝えるか、絵で伝えるしかありませんでした。そこでキリスト教の宣教師は、教会堂に聖書関連の絵を飾ることで、キリスト教の教えを広めていきました。多種多様なステンドグラスやモザイクが発達しました。

いかにしてキリストの教えを、絵を通してよりわかりやすく、精確に伝えるか。そこで生み出された工夫が登場する人物に、その人のイメージと合致するシンボルを与えることです。このシンボルのことをアトリビュートといいます。

カトリック教会、正教会で盛んに用いられています。

聖書やキリスト教に関連する宗教画・絵画には、約束事として、特定の聖人や登場人物に密接に結びつけられた持ち物や小道具、背景や添え物が描かれる。これがアトリビュートです。持物（じぶつ）とも呼ばれます。

イエスの母マリアのアトリビュートとしては、天の真実を意味する青色のマント（ヴェール）、純潔の象徴としての白百合（おしべのないユリの花）、神の慈愛を表す赤色の衣服が代表例として挙げられ、母マリアの象徴として数多くの西洋画に描かれてきました。